

# 南山大学 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）

## 2025 年度（令和 7）年度 自己点検・評価報告書

### 1. 自己点検・評価を行う体制

南山大学共通教育委員会

責任者：南川 和充（教務部長）

### 2. 2025 年度の履修状況について

プログラムの履修状況

データサイエンス入門 1、2、3、4、5、6（定員各 50 名、定員計 300 名）

全学生数：9,884 名(2025 年 5 月 1 日現在)

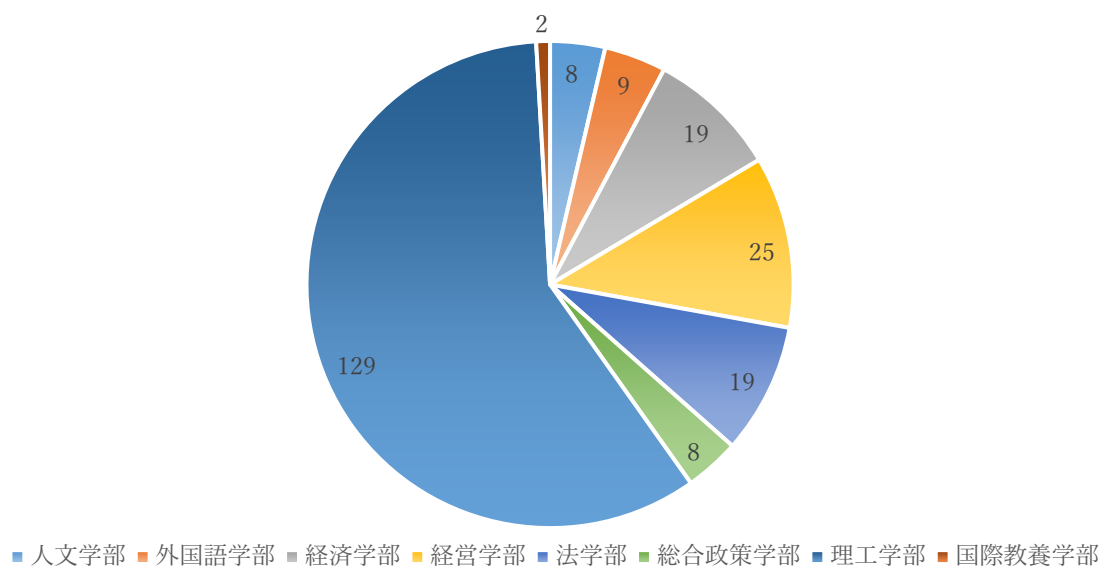
履修者数：219 名

履修率：2.2%

合格者数（修了者数）：185 名

合格率（修了率）：84.5%

2025年度「データサイエンス入門」学部別履修者数



2024 年度は秋学期に 4 クラスのみの開講であったが、2025 年度は 6 クラスに増加し、第 1 クォーターから第 4 クォーターに 1 クラス以上開講した。また、総定員は 300 名である

のに対し、履修者は 219 名（履修中止も含めた履修者数は 229 名）であり、開講クラス数としては、学生の需要を十分に満たしている状況である一方、データサイエンスに対する学生の興味は、社会からの期待に対してそこまで大きくない可能性もある。

学部別の履修状況については、文系学部の学生にこそデータサイエンスの基礎を身に付けてもらいたいと考えているが、昨年度に引き続き、履修生の半数以上を理工学部生が占めることとなった。文系学生への広報活動が必要であると感じている。

### 2025 年度「データサイエンス入門」学部別合格率

学部	履修者数 (履修中止除く)	修了者数 (合格者数)	合格率
人文学部	8	7	87.5%
外国語学部	9	7	77.8%
経済学部	19	13	68.4%
経営学部	25	22	88%
法学部	19	19	100%
総合政策学部	8	5	62.5%
理工学部	129	111	86%
国際教養学部	2	1	50%
合計	219	185	84.5%

また、上図のとおり全体としては 84.5%の学生が修了（合格）しており、学部による大きな差異はないものと考えている。

### 3. 学内からの視点

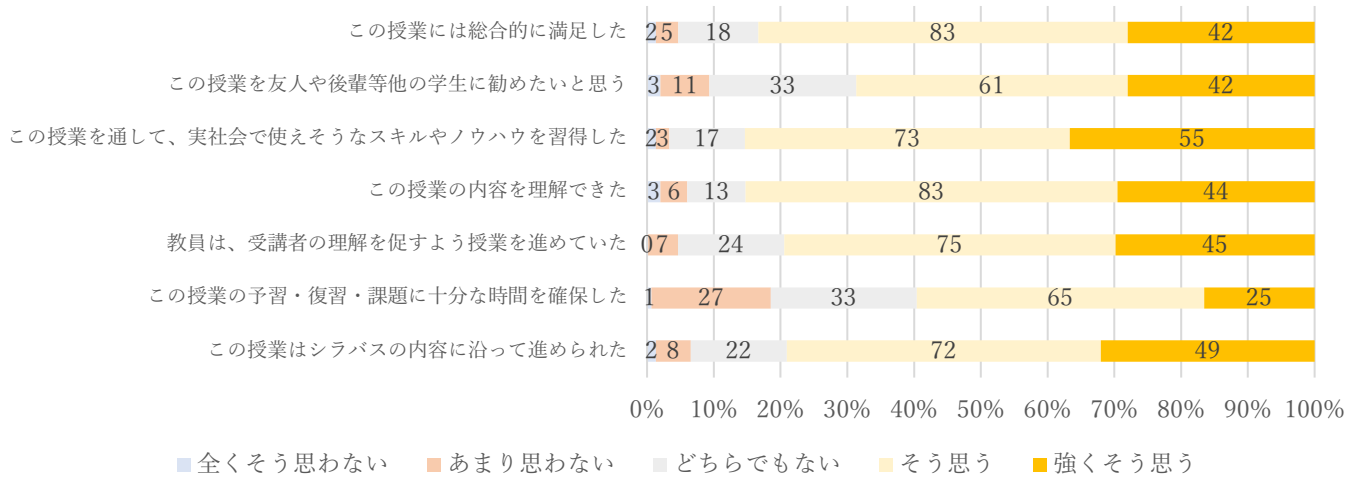
#### ①プログラムの履修・修得状況、学修成果に関する事項

- ・教務課にて、本プログラムの履修・修得状況を把握すると共に、各授業において履修者に対するアンケートを実施し、その分析結果を科目担当者および本学共通教育委員会と共有し、本プログラムの評価・改善に活用する。

#### ②学生アンケートを通じた学生の内容の理解度、他の学生への推奨度

- ・本プログラム履修者に対し、授業アンケートを実施した。今年度は 6 クラスの履修者に対して実施し、153 名の履修者から回答を得ることができた。「この授業には総合的に満足した」という設問に対し、「そう思う」や「強くそう思う」という回答が約 80%占めていることから、概ね履修生に受け入れられた授業であったと判断している。また、本アンケートにおける他の学生への推奨度や履修者の感想等を本学 Web ページでも公開することで、今後の本プログラムの受講に繋がるものと考えている。

## 「2025年度データサイエンス入門」アンケート結果



### ③履修者の声（履修者アンケートより）

#### 「この授業の良い点について」

- ・解説が丁寧なので、文系でもほとんど Excel に触れていなかったとしても授業についていける。
- ・高校でもうすでに学んだことから発展的なことまで、幅広く丁寧に学ぶことができた。
- ・データサイエンス×経済のようにデータサイエンスに何か他の分野を結び付けた実践的な授業を学びたかったのがそれが学べた点よかった
- ・データサイエンス入門の授業は将来社会に出たときにデータの見方などが必要になってくると思うので自分のためになった授業になりました。
- ・データの比較を学ぶことができ、他の科目より日常生活で生かせる内容だった。
- ・授業の丁寧な進め方と、自由度の高い課題より、意欲をもって進んで取り組めた。

#### 「この授業の難しかった点について」

- ・相関や偏差値、標準値など最後の方の内容は少し難しかった。
- ・関数を用いた作業が難しかった。
- ・ピボットテーブルの使い方を習得するのに特に手こずった。
- ・プレゼン力が試されました。
- ・最終レポートにおいて、自身でテーマを設定して授業で学んだ分析手法を用いてデータ処理を行うことが難しかった。
- ・データから何が読み取れるかで、他のレポートを見たところ色々な視点があり、自分の視野の狭さを感じた。

#### ④全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

2025 年度に開講した 6 クラスの履修者については、フランス学科を除く全ての学部・学科の学生がいたものの、データの取り扱いが比較的得意であると想定される理工学部生が約 60%を占め、続いて経営学部生が約 12%、法学部が約 9%、経済学部生が約 8%であった。一方で履修者が少なかったのは、人文学部、外国語学部、国際教養学部であり、これらの学部の履修者数は 1 桁であり、学部による履修者の偏りが見られる結果となった。学生アンケートによると、一部の理工学部生にとっては、既に知識としている内容もあり、もう少し高度なことを学びたかったという意見もあった。

今後に向けては、授業内容、到達目標をシラバスに明記し、本授業を受講するのが望ましい学生を明確化していくことや、大学 Web ページでの広報活動を強化する。

全体的な履修者増への対策については、次年度はクラス数の更なる増加を検討することと並行して、フルオンデマンド授業への可能性も探ることとしており、将来的にこの授業を必修化することについて検討を開始こととしている。

#### 4. 学外からの視点

##### ①教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価に関する事項

現在、本学の教学マネジメントの一環で導入を進めているシステムにおいて、近い将来において卒業生を対象としたアンケートの実施が可能となる予定であることから、このシステムを利用して、本プログラムの修了者の進路や活躍状況を把握することもできると考えている。

##### ②産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等に関する事項

2025 年度教育の活性化に係る地元産業界等との意見交換会を開催し、東朋テクノロジーおよび名古屋銀行の担当者に、当該科目のシラバスや学生アンケートの回答を確認いただき、次の意見をいただいた。

- ・企業としてデータサイエンスのスキルは必須である。今後、特に文系学生は触れてこない職がなくなるだろう。企業にはそれらを社員に教える余力はない。
- ・文系学士も統計は勉強をしておくといよい。統計を使える学生が入社すると企業も底上げができる。
- ・AI を学んだうえで、履修後が大事。それを使うことができなければいけない。
- ・学んだ知識をすぐに活かすことは難しいが、経験に基づいた知識がある人は大きな戦力となる。

データサイエンスに強い人材は中途採用を考えている企業もあったが、文系学生も基本的な知識を有することが求められていることは確認ができた。今後は実際に授業を見ていただく機会があると、より具体的な意見をいただけるのではないかと考えている。

## 5. 改善に向けた取組

### ①数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

実際にデータを加工、分析することから得られる統計データが、実社会において活用される事例とリンクすることで、学生は興味をもって授業を受講している。学生の意見にもあったように、データサイエンスと他の分野を結びつけて学ぶことができることで、より実践的な授業となり、社会人になった時にも役に立つ能力となる。あらゆる分野で当該技術が活用されていることを学生に知ってもらうことで、この科目を受講する意義と学ぶ楽しさを理解してもらいたいと考えている。

### ②内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

学生アンケートの声から、昨年度と同様に統計学で使用する標準化、偏差、標準偏差の理解に時間を要する学生が多い傾向が読み取れた。授業内で学生の理解度を確認することで、学生がどの点に躓くのか、また、既に知っていることなのかを把握し、科目担当者間で共有し、授業内容をより学生のニーズに沿ったものに改善していく。

また、理工学部生の履修生が多い傾向となることで、受講前のレベルに差が生じてしまうため、理工学部生も興味を持つような内容を盛り込むなどブラッシュアップを図っていく。なお、次年度からはワンランク上の「データサイエンス」という授業を開講し、全学向けに「応用基礎レベル」の認定申請を念頭においたプログラムを開始することや、更に専門科目も含めた本学独自の「南山ソーシャルデータサイエンス副専攻」を開始することを予定している。これにより受講生の満足度の向上の実現を目指していく。

以上

(2026年4月22日開催 2026年度第1回共通教育委員会)  
(2026年6月22日開催 2026年度第2回全学カリキュラム委員会)